

2020 年度日本建築学会大会（関東） 建築デザイン発表会発表梗概 応募要領

会場：千葉大学

期日：2020 年 9 月 8 日（火）～10 日（木）

第 13 回を迎える「建築デザイン発表会」は、2020 年 9 月 8 日（火）から 10 日（木）まで 2020 年度大会（関東）・千葉大学西千葉キャンパス（千葉市稲毛区弥生町 1-33）において開催いたします。

この建築デザイン発表会は、会員が設計・計画した建築デザインを発表・議論する場を大会のなかに設けて設計系会員の学会活動への参画を促し、設計系の実務者、教員、大学院生等に建築デザインの評価の機会を提供するとともに、実務・大学院等における設計教育、ひいては設計の質の向上に資することを目的としています。

ここでいう建築デザインとは、設計の論理性、工学的・技術的裏付け、実現した効率性・経済性の根拠等が明確なデザインをいいます。発表にあたっては、以上の主旨がよく伝わるよう表現してください。

2020 年度大会で発表する建築デザイン発表梗概を下記の要領で募集いたしますので、ふるってご応募ください。発表の方法は、発表用ポスターを掲示し、PC 用プロジェクターを使って講演発表を行います。詳細は後日「大会プログラム」および本会ホームページで公表いたします。

なお、下記事項に十分ご留意のうえご応募ください。

- 1) 講演発表は正会員（個人）・準会員・名誉会員に限ります。
- 2) 建築デザイン発表会および学術講演会において、それぞれ 1 題（計 2 題）の講演発表が可能です。応募規程「3. 発表者の権利・義務」「9. 発表登録費」をご覧ください。
- 3) 講演発表者もしくは共同発表者に 2019 年度会費未納者、2007 年度以降の大会発表登録費未納者、2019 年度論文予約購読費未納者がいる場合は応募できません。
- 4) 講演発表者ならびに共同発表者は、発表登録費（表-1 参照）を納入しなければなりません（請求書を 6 月中旬ごろお送りします）。ただし、論文予約会員、名誉会員は、発表登録費を免除します。
- 5) 大会に参加する場合は発表登録費とは別に大会参加費が必要になります。
- 6) 代理の講演発表は認められていません。ただし、建築デザイン発表会、学術講演会の両方に投稿し、かつ相互の発表時間帯が重なった場合（半日単位）には、学術講演会の講演発表を行うこととし、当該の建築デザイン発表に限って共同発表者による代理の講演発表を認めます。
- 7) 建築デザイン発表会は、公開の場で発表しそれが議論されることを目的としていますので、必ず大会に参加し、講演発表を行ってください。
- 8) 応募締切：2020 年 4 月 8 日（水）17 時 は厳守です。学術講演の締切と異なりますので注意してください。
- 9) 締切後の原稿の訂正は一切認められていません。
- 10) 原稿執筆要領に示されている基準を大きく逸脱した原稿は不採択の対象となります。
- 11) 新入会の方は、応募時までに必ず入会手続きを済ませてください。学術講演会の「応募上の注意」を参照してください。
- 12) テーマ部門では、各発表終了後に全体ディスカッションを行い、招待講評者が優秀発表を顕彰します。テーマ部門の発表者は、当該セッションの最後まで参加してください。
- 13) 大会第 2 日目（9 月 9 日（水））に発表者（共同発表者含む）による懇親会を予定しております。
- 14) 本文の言語は、日本語のほか英語での投稿も受け付けます。2015 年度より英文専用の投稿サイトを設けましたので、ふるってご応募ください。

電子投稿の大会コードは半角小文字で chiba です。

応募規程

1. 対象

- a. 本会会員の設計・計画した建築デザイン（国外に立地するものを含む）とし、実施作品、計画案、大学、高等専門学校および専門学校の卒業設計、大学院の設計課題等を含む。
- b. 建築物の意匠設計ばかりではなく、構造、環境工学・設備、材料等の技術分野の設計、構工法・設計システム等にかかわる設計、まちづくり・景観・団地・広場などの都市・地域デザインや造園の設計、保存・修復・復元等の設計、インテリア・家具・ディテールのデザイン、その他建築にかかわる設計を幅広く含む。

2. 応募・発表資格 発表者（講演発表者および共同発表者）の資格は次による。

2.1 講演発表者（〇印）

- a. 発表登録費（表1参照）を期限までに納入した正会員（個人）・準会員、名誉会員に限る。なお、論文予約会員、名誉会員の発表登録費は免除する。
- b. 2019年度会費未納者、2007年度以降の大会発表登録費未納者、2019年度論文予約購読費未納者は応募できない。

2.2 共同発表者（連名者）

- a. 発表登録費（表1参照）を期限までに納入した正会員（個人）・準会員、名誉会員に限る。なお、論文予約会員、名誉会員の発表登録費は免除する。
- b. 2019年度会費未納者、2007年度以降の大会発表登録費未納者、2019年度論文予約購読費未納者は応募できない。
- c. 会員外であって、発表登録費を期限までに納入した者。

3. 発表者の権利・義務 発表者の権利、義務は次のとおり。

- a. 講演発表者（〇印）は、建築デザイン発表会に出席し、一名1題、または学術講演会1題と併せて2題の講演発表を行うことができる。
 - b. 講演発表者は必ず大会に参加し講演発表をしなければならぬ。共同発表者による代理の講演発表は認めない。
 - c. ただし、建築デザイン発表会、学術講演会の両方に投稿し、かつ相互の発表時間帯が重なった場合（半日単位）は、学術講演会の講演発表を行うこととし、当該の建築デザイン発表会に限って代理の講演発表を認める。学術講演については代理の講演発表は認めない。
 - d. c項の場合、代理の講演発表は、正会員（個人）、準会員または名誉会員であり、当該建築デザイン発表の共同発表者に限って認める。該当する者がいない場合には、代理の講演発表を認めない。
 - e. 代理の講演発表は、一名1題を限度とする。
 - f. c項の「発表時間帯が重なった場合」とは、半日単位で発表時間が重なった場合を指す。
 - g. 共同発表者（連名者）は、名を連ねる梗概の題数に制限はないが、講演発表を行うことはできない。
 - h. 講演発表者の出席・欠席およびc項による代理の講演発表は学術推進委員会に報告され、記録として保存される。また、欠席およびc項による代理の講演発表の講演番号は本会ホームページにおいて公表される。
4. 応募方法 大会ホームページからの応募（電子投稿）に限る。大会ホームページ上での建築デザイン発表申込みおよび建築デザイン発表梗概原稿の送信をもって応募とする。なお、締切後の原稿の訂正は一切認めない。

5. 応募部門 応募部門は、テーマを定めない一般部門と、テーマおよび招待講師者をあらかじめ公表するテーマ部門のいずれかとし、建築デザイン発表申込画面の所定欄に応募部門を明記する。

5.1 一般部門

一般部門は、テーマの制約を設けない部門で、プログラム編成会議

で発表セッション分けを行う。また、各セッションには、原則として運営委員が参加する。

5.2 テーマ部門

テーマ部門のテーマおよび招待講師者は年度ごとに定める。2020年度のテーマ・招待講師者は、次ページの「テーマ部門のテーマ・招待講師者」による。テーマ部門は1テーマあたり最大20題程度とし、招待講師者がプログラム編成時に選ぶ。テーマ部門に選ばれなかったものは、一般部門で発表する。

6. 発表方法 発表の方法はポスター展示を伴う講演発表とする。発表方法等の詳細については、学術推進委員会が公表する。講演発表に際しては会場に備え付けられた機器（PC用プロジェクター）以外の使用はできない。

7. 応募期間

期 限：2020年2月15日（土）から**4月8日（水）17時**（厳守）（学術講演の締切日と異なるので注意してください）

提出先：<http://www.ajj.or.jp/jpn/d-taikai2020/>

8. 建築デザイン発表梗概の採否 建築デザイン発表梗概の採否は、学術推進委員会が決定する。下記条項等に照らし建築デザイン発表梗概として不適当と認められるものは採択しない。不採択となった場合は5月20日までに本人に通知する。

- a. 梗概に記された内容が著しく不十分なもの。
- b. 内容が商業宣伝に偏したもの。
- c. 応募規程、執筆要領に反するもの。

9. 発表登録費 発表登録費は表1による。ただし、留学生の会員の発表登録費は発表申込み時に申請があれば減額する。

表-1 発表登録費

	論文予約会員、 名誉会員	正会員・ 準会員	留学生	会員外
1) 学術講演会で発表する者 ^{*)}	0円	9,000円	2,000円	— (発表不可)
2) 建築デザイン発表会で発表する者 ^{*)}	0円	9,000円	2,000円	— (発表不可)
3) 学術講演会/建築デザイン発表会の両方で発表する者 ^{*)}	0円	13,500円	3,000円	— (発表不可)
4) 共同発表者（口頭発表を行わない連名者）	0円	題数によらず 9,000円	題数によらず 2,000円	題数によらず 13,000円

*1) 発表は、学術講演会、建築デザイン発表会で各1題まで発表可能です（「3. 発表者の権利・義務」を参照）。

- a. 講演発表者ならびに共同発表者は、発表登録費（表1参照）を請求書に記載の期限までに納入すること。ただし、論文予約会員、名誉会員は、発表登録費を免除する。
- b. 共同発表の発表登録費は、題数によらず1題分とする。
- c. 講演発表者（〇印）は発表者を代表して共同発表者の発表登録費の納入の義務を果たすものとし、全員の発表登録費の納入がない場合は、当該建築デザインの発表ができない。
- d. 発表登録費未納者は、2021年度以降の学術講演会および建築デザイン発表会に応募できない。

10. 大会参加費 大会に参加する者は、前記「9. 発表登録費」とは別に大会参加費を納入するものとする。

大会参加費および事前納入手続きについては本会ホームページおよび「建築雑誌」4月号に掲載する。

11. 梗概集 採択された建築デザイン発表梗概はDVD版大会梗概集（学術

講演梗概と建築デザイン発表梗概を収録)に収録し、頒布する。なお、発表登録費納入者にはDVD版大会梗概集を無償で送付する。

12. 著作権

- 建築デザイン発表梗概の著作権は応募者に帰属するものとし、本会は編集出版権をもつ。
- 梗概の複写権、翻訳権は本会に委託するものとする。
- 著作権の侵害等の問題は応募者がすべての責任を負う。建築デザイン発表梗概集は電子形態によって公開されることを前提に、写真等については他者の著作権を侵害しないように十分注意する。

13. 電子形態による公開 建築デザイン発表梗概集は、本会および本会が許諾したウェブサイトから全ページが公開される。

14. 講評等

- テーマ部門では招待講評者が2題程度の建築デザインを顕彰する。
- 大会終了後に招待講評者の講評を「本会ホームページ」に掲載する。

テーマ部門のテーマ・招待講評者

2020年度のテーマ部門のテーマ・招待講評者は、下記のとおりである。

a. 数十年に一度の浸水を受けても安心して暮らせる建築と楽しいまち：

和田 章 (東京工業大学名誉教授)

近年の津波被害も多くの豪雨災害も、人々が住み暮らすところの間違ひにより起こります。自然の景観を無視した防潮堤・堤防が建設され、これら信じて危ないところに「まち」ができ、浸水は無視した普通の家々が建てられますが、越流や浸透によって防潮堤や堤防は容易に決壊し大災害に至ります。最善の策は暮らすところを変えることですが、一朝一夕に動くことはできません。次善の策として「数十年に一度の浸水を受けても安心して暮らせる建築と楽しいまち」を築く必要があります。

b. 土木の建築：

栗生 明 (栗生総合計画事務所代表)

2013年、当時の和田章日本建築学会会長と小野武彦土木学会会長の特別対談が『建築雑誌』誌上で行われました。対談の内容は「工学が扱う世界に境界線はない」とまとめられています。土木と連携した建築デザインの可能性を聞きたいと思います。

c. 食の風景と建築：

三宅理一 (東京理科大学客員教授)

スローフード概念の定着とともに、今日、農業や漁業など第一次産業に関わる地域の価値が再評価されています。安心、安全とともに楽しく健やかな暮らしを生み出す食にまつわるライフスタイルと供給の仕組みを、建築デザインやランドスケープを通して考えてみませんか。

d. 子どもが育つ道具としての建築：

手塚由比 (手塚建築研究所代表取締役)

子どもは建築からさまざまな影響を受けて育ちます。建築には子どもが何かをしたくなるきっかけをつくる力があります。どんな建築をつくると子どもはどんなことをしてみたいのでしょうか？ 子どもが育つ道具としての建築とはどのようなものか考えてみましょう。

e. 人・時間・空間・地球をむすぶ環境デザイン：

荻原廣高 (神戸芸術工科大学准教授)

気候変動やエネルギーなど、地球環境をめぐる課題は山積しています。そうした背景と重ね、気候風土を上手に受け入れてその季節や時間を映し、また生活者(利用者)自身の行動を促す——人や空間、時間、そして地球環境の豊かな関係を築く環境デザインの在り方について考えましょう。

f. 一人ひとりの居場所：

南後由和 (明治大学准教授)

家族や地域コミュニティなどの中間集団が弱体化し、単身者が急増する社会において、一人ひとりが多様で寛容な関係性を築くには、どのような建築デザインが求められるでしょうか。既存の「ひとり」をめぐる空間イメージを書き替えるような提案を期待します。

発表会実施要領

1. 発表の方法

講演発表者は、会場の定められたパネルに時間割に沿ってポスターを掲示し、定められた場所でPC用プロジェクターを使って講演発表および質疑応答を行う。会場・時間割は学術推進委員会プログラム編成会議が決定する。

2. 講演発表時間

1題あたり8分(発表4分、質疑応答4分とする)

3. ポスター

ポスターはA2判2枚(縦使い、左右並列)とし、原則として発表梗概を拡大したものとする。モノクロ、カラーは問わない。

4. ポスターの掲示

ポスターは画紙でパネルに貼れるように作成し、発表者が当日会場に持参し、各自で掲示・取り外しを行う。

原稿執筆要領

1. 用紙設定

白地のA4判2ページとする。ワープロソフト等で上マージン15mm、下マージン15mm、左右マージン15mm、として設定する。なお、この基準から大きく逸脱した原稿は、執筆要領に反するものとして不採択となる場合がある。

2. 記載方法

下記の項目をレイアウト見本に準拠して記載する。レイアウト見本はホームページ上で提供する。

a. 1ページ目上段

- ・和文・英文で、表題、会員種別・発表者名・所属を記載する。
- ・会員種別・発表者名(連名の場合は講演発表者を筆頭に記し、氏名の前に○印をつける)は上段に記載する。
- ・連名者で、設計統括責任者・指導教員等を明示する必要がある場合は、その者の氏名の前に※印をつけることができる。※印を付した場合は、その役割を註記する。

b. 2ページ目上段

- ・和文・英文で所在地(計画案の場合は適宜、とくに住宅等では建築主のプライバシーを考慮して表記する)、主な用途、敷地面積、建築面積、延床面積、キーワード、特記事項・データ等を記載する。

3. 設計趣旨・説明文・図表および写真

設計趣旨(600字以上)・説明文・図表・写真等は適当と思われる場所にレイアウトする。設計趣旨・説明文の文字の大きさは8ポイントを原則とする。図表および写真は原稿に貼り付けた状態でPDF化し、別ファイルにはしない。発表者以外が撮影した写真等を使用する場合は、著作権に十分注意する。

4. キーワード

発表申込画面に入力したものと同一キーワード3~6個を必ず記述する。用語は日本建築学会「学術用語集—建築学編」から選ぶことを基本とするが、適当な用語がない場合はこの限りではない。

5. ファイルサイズ(容量)の制限

ファイルサイズは3MB以内とする。3MBを超えたファイルは受信しな

い。提出するファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティは設定しない。

電子投稿用原稿作成上の注意

1. ファイル形式

電子原稿は Adobe Reader で表示および印刷可能な PDF (Portable Document Format) ファイルで提出してください。

2. ファイルサイズ (容量) の制限

ファイルサイズは **3MB** 以内とします。3MB を超えると受信いたしません。またファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティ設定はしないでください。

3. ファイル名について

必ず拡張子 (pdf) が付いているファイルをお送りください。

4. 提出方法

提出方法は大会ホームページからの応募 (電子投稿) に限ります。

5. 作成するアプリケーションと OS

原稿を作成するアプリケーションの制限はありません。OS は Windows 7 以上または Mac OS10.12 以上を推奨します。

6. PDF ファイルの作成方法

PDF ファイルは、原則として Acrobat DC 以降 (または同等品) を用いて作成します。作成方法についてはソフトに付属のマニュアルまたはホームページ上の執筆要項をご覧ください。

Acrobat の詳細については <http://www.adobe.com/jp/> をご覧ください。

7. 使用できるフォントの制限

投稿された PDF ファイルは Windows または Mac 上で稼働する DVD に掲載されますので、原稿内に使用するフォントは以下に限定してください。

OS	Windows	Mac (OS10.12 以上)
日本語フォント	MS 明朝または MS ゴシック	MS 明朝、MS ゴシック、ヒラギノ
英字フォント	Arial, Century, Helvetica, Symbol, Times, Times New Roman	

※ どうしても他のフォントを利用したい場合は、PDF 作成時にフォントの埋込みを行ってください。

8. 色使い

本文の文字は黒色としますが、図・表・写真等については色使いの制限は特にありません。

9. 写真や画像などの解像度

写真や画像を含む場合、PDF 化することにより、出力品質が劣化することがあります。ファイルサイズ制限内で、PDF 化する際のジョブオプションの値を高めて作成してください。

10. 印刷の確認

作成した PDF ファイルは一度プリンターで印刷し、執筆者の意図どおり印刷されることを確認してください。

11. その他

応募上の注意、発表申込み記入要領、電子投稿要領は、学術講演会と共通です。

会員番号・大会用会員外登録番号の取得

2020 年度大会で建築デザイン発表するために新たに入会される方は、**応募時までに必ず入会手続きおよび入会金・会費の支払い手続きを済ませてください**。応募するためには発表者 (会員外も含む) 全員の会員番号または大会用会員外登録番号が必要ですので、次の方法により取得してください。

会員番号の取得：本会ホームページで入会手続きを行ってください (<https://www.aij.or.jp/>)。

入会予定者は入会金・会費の支払い手続きをされないと、入会手続きが

完了しません。

①インターネット経由で入会手続きを行う場合は、入会金・会費の支払い方法として「**口座振替**」を希望すると Web 上で**会員番号を即時に取得できますが、「請求書払い」を希望すると入金後に会員番号が発行されますので、取得に 10 日間前後の時間がかかります。**十分にご留意ください。なお、正式な入会は理事会承認後になります。

②郵送または FAX で入会手続きを行う場合は、入会申込書が事務局に到着後、**会員番号の取得に 10 日間前後の時間がかかりますので、できるだけインターネット経由で「口座振替」をご利用ください。**

大会用会員外登録番号の取得：本会ホームページ (<http://www.aij.or.jp/jpn/d-taikai2020/>) で取得してください。

●2019 年度建築デザイン発表会 [テーマ部門] 顕彰者

【心地よい公共の居場所】招待講師：藤江和子

- ・14042 蕪木伸一 (大成建設一級建築士事務所)・藤澤亜子・木川薫
- ・14044 田中智之 (熊本大)
- ・14056 森山ちはる (side by side 一級建築士事務所)

【素材を見極める】招待講師：竹原義二

- ・14149 熊本崇人 (大阪市立大)・田中大貴・小池志保子・岡本滋史
- ・14150 伊藤京子 (慶應義塾大)・守屋嘉久・和田雄樹・アルマザンホールへ
- ・14164 田中亮平 (GARCHITECTS STUDIO)・許光載

【セルフビルのデザイン】招待講師：渡辺真理

- ・14010 竹内宏俊 (日本工業大)
- ・14012 久富敏明 (摂南大)
- ・14015 後藤真皓 (東京藝術大)・稲荷悠・小西隆仁・中原風香・藤村龍至・莫然・山川陸

【人を中心とした環境・空間デザイン】招待講師：近本智行

- ・14105 藤本健太郎 (竹中工務店)・伊藤宏樹・江湖猛敏
- ・14113 尾藤勇志 (佐藤総合計画)・郷田桃代
- ・14124 西郷正浩 (崇城大)

【木を使った建築】招待講師：腰原幹雄

- ・14022 杉浦久子 (昭和女子大)・黒木志保・福森沙紀・伊藤慶夏
- ・14032 福山弘 (福山弘構造デザイン)
- ・14038 山下美帆 (清水建設)・西谷隆之・田中初太郎・久米建一・齋藤公男・村上勝英・江坂佳賢

【ここから始まる歴史性・地域性】招待講師：倉方俊輔

- ・14133 新妻優輔 (竹中工務店)・佐田野剛・薬師寺浩
- ・14135 齋藤信吾 (早稲田大)・池田理哲・池上功祐・川上陽子・栗林優子・辻端彩乃・森山陽介・脇田佳・原瑞徳・藤頼雄登・鯉坂徹・古谷誠章
- ・14136 池田理哲 (早稲田大)・青木日向子・菅原功太・廣西航多・山田瑞月・小日向孝夫・福山智大・真木友哉・森山幸次・鯉坂徹・齋藤信吾・古谷誠章

●2020 年度大会建築デザイン発表会運営委員会

- 委員長 陶器 浩一 (滋賀県立大学)
- 幹事 杉浦 久子 (昭和女子大学)
- 萩原 剛 (早稲田大学)
- 古谷 誠章 (早稲田大学)
- 堀越 英嗣 (芝浦工業大学)
- 委員 浅石 優 (元東京都立大学)
- 伊香賀俊治 (慶應義塾大学)
- 伊藤 恭行 (名古屋立大)
- 門脇 耕三 (明治大学)

小泉 雅生 (首都大学東京)
佐藤 淳 (佐藤亭構造設計事務所)
佐藤 光彦 (日本大学)
下吹越武人 (法政大学)
清家 剛 (東京大学)
田辺 新一 (早稲田大学)
羽鳥 達也 (日建設計)
本杉 省三 (日本大学)